

3. 2 協会・支部等の活動事例

各地の建設業協会や支部・部会は、自然災害の応急復旧活動を始め、地域活性化の取組、河川・道路清掃や植樹などの環境美化、各種催し等による住民とのふれあいなど、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

令和元年度に顕彰した協会・支部等のこうした活動事例の中から、3. 1で紹介した代表事例のほか、ここでは次の15事例を紹介します。

No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A1-01	京都府	京都府建設業協会福知山支部・舞鶴支部	平成30年7月豪雨における災害復旧支援活動
A1-03	佐賀県	(一社)佐賀県建設業協会	平成30年7月豪雨における8支部による災害復旧支援活動
A2-01	滋賀県	(一社)滋賀県建設業協会伊香支部	除雪業務の担い手育成塾の開催
A3-01	岩手県	岩手県建設業女性マネジングスタッフ協議会奥州支部	水沢公園の清掃美化活動
A3-02	群馬県	(一社)群馬県建設業協会	「環境すみずみパトロール隊」による道路清掃美化活動
A3-03	静岡県	(一社)静岡県建設業協会	河川の清掃美化活動
A3-04	岐阜県	(一社)岐阜県西濃建設業協会	「西濃地域河川クリーン作戦」の実施
A3-05	富山県	富山県建設業協会魚津支部青年部会	中川放水路の除草・伐木等整備活動
A3-06	富山県	富山県建設業協会立山支部青年部会	河川の環境美化活動
A3-07	山口県	山口県建設業協会周南支部	道路の環境美化活動
A4-01	山梨県	(一社)甲府地区建設業協会青年部会	小学校での建設機械試乗体験の実施
A5-01	千葉県	(一社)千葉県建設業協会	鉄道駅でのポスター掲示による広報活動
A5-02	山梨県	(一社)笛吹建設業協会	中学生を対象とした体験型出前授業の実施
A6-01	長野県	長野県建設業協会伊那支部・松筑支部	宮田村で発生した豚コレラに係る防疫活動
A6-02	滋賀県	(一社)滋賀県建設業協会東近江支部	近江八幡市で確認された豚コレラに係る防疫活動

(1) 災害復旧支援活動

事例 A1-01 : 京都府

平成 30 年 7 月豪雨における災害復旧支援活動（京都府建設業協会福知山支部・舞鶴支部）

平成 30 年 7 月の西日本豪雨では、京都府全域で河川の氾濫や土砂崩れが相次いだ。京都府建設業協会は、自治体や国からの要請を受けて、各地で災害復旧支援活動を展開した。

福知山市では、6 日に大雨特別警報が出され、市は災害対策本部を設置した。

同協会福知山支部は、対策本部からの支援要請を受け、由良川付近の住民の避難誘導や二次災害の防止など、会員企業による災害への対応活動を開始した。特に、大江町公庄では、土砂崩壊でせき止められた谷河川が天然ダムとなり、崩壊の危険が発生したため、24 時間体制で国道 175 号を規制するとともにダムの排水措置を施し、崩壊を回避した。

(写真提供：今村工業株式会社)



国道 27 号の法面崩壊（舞鶴市真倉地区）



土砂撤去作業



仮設防護柵完成

舞鶴市では、7 月 7 日、真倉地区の国道 27 号沿いで山腹が法面崩壊し、両側車線が塞がれて通行不能となった。

同協会舞鶴支部は、福知山河川国道事務所からの要請で会員企業が緊急出動し、24 時間 3 交替制で道路上の土砂撤去、大型土のうによる土留め施工を行った。その結果、13 日には片側車線、30 日には両側車線が通行可能となった。9 月 14 日の仮設防護柵完成までに従事した作業員は延べ約 500 人に上った。



国道 175 号の交通規制（福知山市大江町）



谷河川天然ダムの排水管設置

事例 A1-03 : 佐賀県

平成 30 年 7 月豪雨における 8 支部による災害復旧支援活動 ((一社)佐賀県建設業協会)

平成 30 年 7 月の西日本豪雨は、佐賀県でも初の大雨特別警報が発表され、道路の通行止め 10 ケ所、道路・河川の損壊等 484 ケ所、林道・農地・林地等の被害は 4,000 ケ所を超えるなど、被害総額 150 億円以上、佐賀県として過去最大級の自然災害となった。

佐賀県建設業協会は、県との災害協定に基づき、全支部が総力を挙げて対応に当たった。

佐賀支部・唐津支部では、特に山間部の林道被害が大きく、24 時間体制で応急復旧を行った。伊万里支部では、国道・県道とともに農業用地・農道・生活道路の復旧を図った。

神埼支部・唐津支部では、河川護岸崩壊への対応が求められ、各地で道路が冠水する中、パトカー先導による異例の資材運搬等によって、堤防の決壊を防ぐことができた。

鳥栖支部・小城支部・杵島支部・藤津支部でも、河川の増水、道路の冠水、家屋浸水等、昼夜を問わず対応を行った。

また、豪雨後も断続的に雨が続いたため、西九州道路の大規模、小規模の法面崩壊の復旧、海岸漂着ごみの撤去など、災害復旧活動は長期間にわたって継続された。

同協会は、今回の大規模災害対応で得られた数々の教訓を活かして、今後も支援体制を更に強化していきたいと考えている。



県道富士三瀬線の法面崩壊



土砂撤去作業



仁部川の護岸崩壊



護岸崩落物の撤去



海岸漂着ごみの撤去

（２）地域活性化への取組

事例 A2-01：滋賀県

除雪業務の担い手育成塾の開催（（一社）滋賀県建設業協会伊香支部）

滋賀県北部の伊香地域は、大半が豪雪地帯に属し、冬季は雪寒対策が必須である。

滋賀県建設業協会伊香支部は、除雪作業者の高齢化による今後の雪寒対策への危機感から、平成 28 年度より、除雪作業オペレーター訓練のための育成塾を開催している。

訓練内容は、運転技能訓練として、地元の自動車教習所のコースを利用した大型特殊車両等の基礎運転訓練、経験者向けの操作感覚の再認識訓練、座学として、滋賀県土木事務所職員による除雪作業施工管理研修、除雪車両のメンテナンス研修、警察署交通課長による除雪前交通安全教室となっている。また、実際の積雪時には、工事用道路の使用許可を得て、ベテランの指導による若手オペレーターの実技研修を行った。

育成塾の卒業生は、3 年間で 23 名となり、次代の担い手として活躍が期待されている。

同支部では、除雪シーズンには、日本気象協会や自治体が発表する管内の詳細な気象情報を除雪作業者へ直接配信するなど、今後も雪寒対策を充実していきたいとしている。



除雪業務の実技研修

（３）環境美化・保全活動

事例 A3-01：岩手県

水沢公園の清掃美化活動（岩手県建設業女性マネジングスタッフ協議会奥州支部）

岩手県建設業女性マネジングスタッフ協議会奥州支部では、平成 21 年から毎年 11 月、奥州市が管理する水沢公園の清掃美化活動を実施している。

平成 30 年度は、11 月 13 日、同支部から多数の女性スタッフが参加して実施された。

水沢公園は、桜の木が 500 本以上ある岩手県内でも有数の桜の名所として知られ、例年 4 月に開催される「水沢公園桜まつり」には、県内外から多くの来場者が訪れている。

毎年恒例となった同支部の清掃美化活動は、地元紙の胆江日日新聞でも紹介され、奥州市都市計画課からも感謝されている。



女性スタッフによる落ち葉の清掃落葉

事例 A3-02：群馬県

「環境すみずみパトロール隊」による道路清掃美化活動（（一社）群馬県建設業協会）

群馬県建設業協会では、昭和 63 年から毎年 5 月 30 日（ゴ・ミ・ゼロ）、県下一斉に道路クリーン作戦を展開している。

これは、高崎河川国道事務所及び群馬県県土整備部の協賛のもと、全支部から約 2,000 人が参加して、国道及び主要地方道の清掃を行う活動で、平成 25 年からは、会員企業の女性職員が支部ごとに結成した「環境すみずみパトロール隊」（愛称：ぐんケンガール）が参加し、女性ならではの細やかな視点から、公共施設周辺の美化活動も並行して行っている。

「ぐんケンガール」は、統一ユニフォームのもと、活動の幅を広げたいとしている。



ぐんケンガール（高崎支部）



ぐんケンガールによる美化活動（前橋支部）

事例 A3-03 : 静岡県

河川の清掃美化活動（（一社）静岡建設業協会）

静岡建設業協会では、昭和 50 年より、二級河川巴川とその堤防（延長約 500m、面積約 5,000 m²）で清掃美化活動を実施している。

これは、昭和 49 年の「七夕豪雨」で氾濫し、大きな被害を出した巴川において、堤防部の安全確保の一環として、翌年から始めた活動で、出水期に入る前に、流れを阻害する河床の低木等の除去、堤防の草刈りや空き缶などのゴミ収集を行なっている。

平成 30 年度の清掃美化活動は、6 月 13 日、会員企業から 93 人が参加して実施された。

巴川の堤防は傾斜がきつく、草刈り等も危険な作業となるため、プロである協会会員の大規模な取組みは、地域や行政機関からも高い評価を受け、感謝されている。



河床の低木等の除去



堤防の草刈りとゴミ収集

事例 A3-04 : 岐阜県

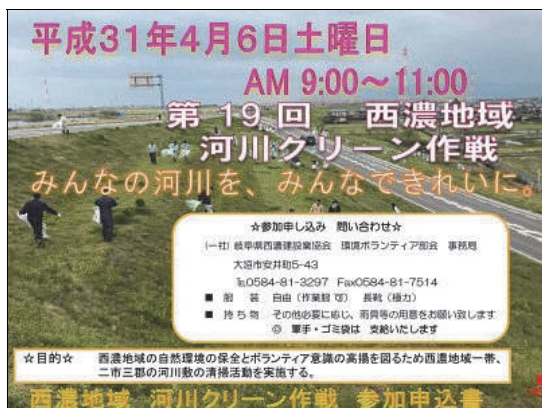
「西濃地域河川クリーン作戦」の実施（（一社）岐阜県西濃建設業協会）

岐阜県西濃建設業協会は、自然環境の保全とボランティア意識の高揚を図るため、環境ボランティア部会の主催で、平成 12 年より「西濃地域河川クリーン作戦」を展開している。

この活動は、会員企業のほか地域住民、行政、一般企業から毎年 1,000 人が参加する大規模なもので、揖斐川をはじめとする西濃地域一帯の代表的河川で実施されている。

平成 31 年は、4 月 6 日、総勢 1,150 人が参加して、各地の河川敷や堤防で可燃ゴミ 1,000 kg、不燃ゴミ 400 kg を回収した。

同協会は、活動を継続実施することで、建設業への理解が深まることも期待している。



「西濃地域河川クリーン作戦」参加案内



揖斐川堤防でのゴミ回収

事例 A3-05 : 富山県

中川放水路の除草・伐木等整備活動（富山県建設業協会魚津支部青年部会）

富山県建設業協会魚津支部青年部会では、平成 16 年度から毎年「全国建設青年の日」に合わせて、管内の魚津市、滑川市の河川や海岸の環境美化活動を実施している。

平成 30 年度は、地域住民の防災意識の向上と防災施設の保全を図ることを目的に、7 月 17 日、22 人が参加して、洪水被害防止のために整備された中川放水路の滑川市上小泉地内親水護岸約 50m の区間で、除草や伐木等の整備活動を行った。

同部会は、今後もこの活動を継続することで、地域の環境美化保全、安全・安心の確保に寄与していきたいとしている。



中川放水路の除草



親水護岸の伐木

事例 A3-06 : 富山県

河川の環境美化活動（富山県建設業協会立山支部青年部会）

富山県建設業協会立山支部青年部会では、平成 18 年度から毎年「全国建設青年の日」に合わせて、河川の環境美化保全を目的とした「リバーボランティア活動」を実施している。

平成 30 年度は、7 月 26 日、部会員 20 人と地元の小学生を含む児童・保護者 45 人が参加して、大岩不動で有名な日石寺近隣の親水公園や大岩川でゴミ拾いなどを行い、併せて、岩魚の稚魚の放流を行った。

同部会は、これらの活動を通して、児童や保護者が河川環境の美化保全の大切さを理解し、河川に愛着を持ってくれることを願っている。



大岩川の清掃



岩魚の稚魚の放流

事例 A3-07 : 山口県

道路の環境美化活動（山口県建設業協会周南支部）

山口県建設業協会周南支部は、山口国体が行われた平成 23 年より、地域貢献活動の一環として、道路の環境美化活動を実施している。

平成 30 年度は、10 月 26 日、会員企業 33 社より 90 人が参加し、周南港湾管理事務所、周南土木建築事務所と協力して、「周南みなとまつり」会場周辺及び市街地道路のゴミ拾いや除草を行った。

同支部では、道路の環境美化活動の他にも、7 月には末武川の河川清掃活動、10 月には天然記念物ナベヅルのネグラの整備活動を実施しており、この 3 つのボランティア活動を毎年継続することで、地域環境の保全に貢献したいと考えている。



歩道のゴミ拾い



道路周辺の除草

（４）建設業ふれあい活動

事例 A4-01：山梨県

小学校での建設機械試乗体験の実施（（一社）甲府地区建設業協会青年部会）

甲府地区建設業協会青年部会は、平成 26 年度より、建設業ふれあい活動の一環として、同地区の小学生を対象に、建設機械の試乗体験などを実施して、建設業の業務内容を紹介している。

平成 30 年度は、低学年（主に一年生）の児童を対象に、一年生の国語の題材「じどう車くらべ」に合わせて、高所作業車や重機の試乗体験、ドローンの飛行実演を行った。

青年部会では、建設技術者、技能者不足が深刻化する中、地域の未来を担う子どもたちが建設業を知り、興味を持ち、将来の職業として意識することを期待して、こうした活動を今後も継続していきたいとしている。



高所作業車の試乗体験



ミニバックホーの操作体験

事例 A5-01：千葉県

鉄道駅でのポスター掲示による広報活動（（一社）千葉県建設業協会）

千葉県建設業協会は、建設業の魅力をアピールするためのPRポスターを制作し、平成30年9月、県内の鉄道12路線と、千葉駅など9駅の構内に掲示する広報活動を行った。

ポスターのデザインは３種類で、それぞれ「自信、安心、先進。」「地域をまもり、明日（みらい）をつくる」「ワカモノは建者（けんじゃ）になった！」をキャッチコピーとした。これらポスターは話題となり、建設業福祉共済団の広報活動表彰最優秀賞を受賞した。

同協会では、今後もインパクトのある広告を出し続けることで、建設業のイメージアップを図り、深刻化する人手不足の解消につなげたいとしている。



PRポスター「ワカモノは…」編



駅ホームでのポスター掲示

事例 A5-02：山梨県

中学生を対象とした体験型出前授業の実施（（一社）笛吹建設業協会）

笛吹建設業協会では、平成27年度より、建設業の担い手確保に向けた広報活動の一環として、中学生を対象とした体験型出前授業を行っている。

平成 30 年度は、10 月 25 日、青年部会が中心となり、甲府河川事務所の協力を得て、笛吹市の一宮中学校で「学校キャラバン」と題した職業体験講座を開催し、82 人の生徒が重機試乗やコンクリート打設、測量、土のう製作などを体験した。

同協会は、この出前授業の活動を通じて、中学生に建設業の魅力を感じてもらい、進路の選択先としてもらえることを願っている。



コンクリートのコテ押え体験



測量体験

（６）その他

事例 A6-01：長野県

宮田村で発生した豚コレラに係る防疫活動（長野県建設業協会伊那支部・松筑支部）

平成 31 年 2 月 6 日、長野県上伊那郡宮田村の養豚農場で豚コレラの発生が確認された。長野県建設業協会は、県との「家畜伝染病の発生時における防疫業務に関する基本協定」に基づき、伊那支部に処分豚の埋却を、松筑支部に運搬と埋却資材の提供を要請した。

伊那支部では、埋却場所の調査・試験掘りの後、埋却溝の掘削、積込・運搬、投入、埋戻しの一連の作業を、重機 7 台、作業員 5 人（延べ 45 人）が 24 時間交代で連続して行い、約 2,400 頭の処分を所定の 72 時間以内で無事完了することができた。

松筑支部では、既に食肉処理場に出荷された豚の埋却場所への運搬、排泄物等のごみ焼却場への運搬を、ダンプ 3 台、運転手・補助員 5 人で行い、予定時間内に完了させた。



感染豚の搬出（松筑支部）



感染豚の埋却（伊那支部）

事例 A6-02：滋賀県

近江八幡市で確認された豚コレラに係る防疫活動（（一社）滋賀県建設業協会東近江支部）

平成 31 年 2 月 5 日夜、近江八幡市で豚コレラ感染の可能性があることが判明した。

滋賀県建設業協会東近江支部は、滋賀県からの一報を受け、同日夜に埋却地等を視察、打合せを行い、翌 6 日に県から協会本部に対して協定に基づく正式な協力要請があり、早朝より埋却溝の掘削を開始。7 日午前 7 時までの間、昼夜を問わず埋却作業に従事した。その後も、県より消毒ポイント設置の依頼を受け、3 月 6 日の収束宣言に至るまで随時資機材の調達を行い、最終的にポイント撤去等を経て同支部の防疫活動は完了した。



感染豚の搬入



感染豚の埋却